



PDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会3位獲得!



2022年11月5日、「令和4年度PDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会」が実施されました。これは即興型英語ディベートを通じて、生徒の英語による実践的コミュニケーション能力の向上を図るとともに、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成を図ることを目的とする大会です。参加校は学力向上進学重点校及び学力向上進学重点校エントリー校（横浜翠嵐、横浜平沼、横浜緑ヶ丘、横浜国際、光陵、希望ヶ丘、川和、柏陽、多摩、横須賀、平塚江南、鎌倉、湘南、小田原、茅ヶ崎北陵、相模原、厚木、大和）の18校でした。本校から英語部の6名（2年7組中野遥さん、2年2組鈴木彩花さん、2年6組平野亜実さん、1年6組岸綾馬さん、1年1組鈴木里沙さん、1年7組安田泉さん）が参加し、見事に3位を獲得することができました。今回、代表して部長の中野遥さんに話を聞きました。

私自身、横須賀高校に入学しようと考えたきっかけが「PDA英語ディベート大会で横須賀高校が優勝した」という記事を読んだことでした。そのため、今回の3位という結果はとても嬉しく思っています。この結果を残せたのは、日々の部活での練習の成果と個人個人の努力によるものだと思います。英語ディベートをする上で大切なのは「論理的思考力」とそれを伝える「英語力」だと私は思っています。部活の練習はほとんどが実践練習なので、その二つを部活のみで補うことは不十分であり、日々の英語の勉強やニュースや新聞を確認するなどといった知識の収集の習慣がなければそれらは身につかないものです。二年生はもちろんのこと、一年生に関しても確かなディベート力を持った状態で本番に挑むことができました。本番では全三回戦のうち三回戦目で勝つことは出来ませんでした。それもまた新しい反省や戦った相手のディベート術を知ることができた良い機会として、更なるスキルアップを目指したいと思えます。2年7組 中野 遥



Prin I 「JAよこすか葉山」発信

今年度から「JAよこすか葉山」が本校SSH事業に協力して下さっており、現在Prin Iの9名が農薬やマーケティングの研究中です。1年5組春原さんのコメントです。



私たちはPrincipiaの研究で、JAよこすか葉山さんの協力のもと、研究を行っています。私たちのグループのテーマは「農園のPRと人員問題」です。研究の目的は、農業に興味をもつ若年層を増やすことで、そのために今の農業のPR効果を調べ、新しいPRの仕方を自分たちで考えようとしています。研究の意義は日本の農業というものが無くならないように

することです。そのためには若い世代の力が必要不可欠だと感じました。私たちの研究手法は大きく分けて二つあります。そのうちの一つは、実際に農園を訪れることです。12月15日、私たちは津久井浜観光農園に伺い、いちごの生産農家の方々にお話を聞かせていただきました。そこではPRの工夫、コロナ禍の乗り越え方、利益の生み方など、農業の難しさややりがいなどを聞かせていただき、お客様を笑顔にする工夫をされていることを知りました。私たちの研究は決して1人で行える規模ではなく、JAの方々、農園の方々はもちろんのこと、横高の先生方や生徒の皆さんの協力も得て研究を進めることができます。これからも感謝の気持ちを忘れず研究に励んでいきたいと思えます。1年5組 春原 壯多



Prin II 「防衛大学校」発信

Prin II「防衛大学校」のイオンエンジンAチームは日々主体的・協働的に活動し、一丸となって課題解決に邁進しているチームです。2年4組三浦さんのコメントです。



私たちは研究機関の先生のご指導のもと、自分たちの手で「イオンエンジン」というものを製作するために日々研究を進めています。今年度は校内で2回実験を行い、計画性、チームワーク、行動力の大切さなどを学びました。しかし、思い通りに進まないことも多く、特に苦労したのは、適切な物品や実験方法を考えて納得してもらえるような説明をすることです。グループ内では製作過程や必要な材料、道具を把握しているつもりでしたが、いざ他人に説明しようとする、と、わかりにくくなってしまったり、根拠が曖昧で説得力に欠けてしまうことが多々ありました。このような内容を見ると、そこまで細かくこだわる必要は無いのでは、と感じるかもしれませんが、しかし、実験は未知の世界であり、どんなハプニングが起こるか全てを予想することは困難です。なので、安全性、信頼性を保証するためにはもちろんのこと、何よりも実験の成功確率を少しでも上げるために、より具体的かつ客観的に計画を練ることがとても重要になってくると思います。Prin IIもあと少しですが最後まで駆け抜けていきたいです。2年4組 三浦 望実

